|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　**（１）火災発生時の対応** | 指導時期等 | 主な指導場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 |
| ② | 火災が発生したときの初期消火の仕方を知る。 | 1) | 出火の現場に居合わせたときは，「避難」「通報」「初期消火」である。 | → | 行 |  |
| 2) | 火事を見つけたときは大声で「火事だ」と叫ぶ。 | ◎ | 行 |
| ④ | 火災が発生したときの避難の仕方の基本について身に付ける。 | 2) | 服装や持ち物にこだわらずできるだけ早く避難する。 | ◎ | 行 |
| 3) | 煙の中を逃げるときは，できるだけ姿勢を低くして，濡れたタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う。階段でははったまま後ろ向きに逃げる。 | ○ | 行 |
| 6) | 学校や人がたくさん集まる場所で火災に遭遇したときの避難の仕方「お・は・し・も」を知る。(おさない，はしらない，しゃべらない，もどらない） | ◎ | 行 |
| ⑤ | 大きな建物などでは，普段から避難経路を確認することの大切さを知る。 | 1) | 大きな建物には誘導灯が設置されている。 | ○ | 行 |
| 2) | 火災の時は停電になり，暗い中で避難する場合もあるので，誘導灯を頼りに避難する。 | ○ | 行 |
| 3) | 避難経路の確認とともに，緊急放送に注意して，適切な避難行動をとる。 | ○ | 行 |
| ⑥ | 火災において，一酸化炭素や有毒ガスが発生した場合，非常に危険であることを知り，避難に活かす。 | 1) | 発生する煙には有毒物質が多く含まれているが，その中で最も多く含まれているのが一酸化炭素であること。 | ○ | 教・行 |
| 2) | 焼死者の多くが，煙を吸って意識不明になったところを炎に襲われている。 | ○ | 行 |
| 3) | 避難の時には，煙を吸わないことが重要である。 | ○ | 行 |
| 4) | 煙の上昇速度は毎秒３～５mと人の走る速さの２～３倍ほど。 | ○ | 行 |
| 5) | 煙が横に広がる速さは，毎秒0.3～0.8ｍで人がゆっくり歩く速さである。 | ○ | 行 |
| 6) | 避難の時は体勢を低くして，口や鼻をハンカチやタオルで覆う。 | → | 行 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **（２）火災予防の事前対応** | 指導時期等 | 主な指導場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 |
| ① | 火災の発生原因の傾向を理解して，火災を絶対に発生させない。 | 1) | 火災の発生原因の第１位は放火であり，平成22年度は放火の疑いも合わせると全体の20.4％であること。 | ○ | 行 |  |
| 2) | 放火対策として，燃えやすい物を放置してはいけないこと。 | ○ | 行 |
| 3) | 火遊びが原因の火災は平成22年度全体の3.6％で1678件発生している。火遊びは絶対してはいけないこと。 | → | 行 |
| ② | 火災予防に対する社会の取組について知り，自分ができることを考え実行する。 | 6) | 宮城県には幼年消防クラブ，少年消防クラブが組織され，平成24年5月1日付けで440団体33,094人が所属している。 | →　 | 行 |

指導時期：**○**機会を捉えて指導する時期，**→**継続指導の時期，**◎**重点的に指導する時期，**◇**再確認させる時期

指導場面：**教**＝教科等，**H**＝HR等，**行**＝学校行事，**部**＝部活動等，**日**＝日常

凡

例